

# 令和3年度 事業計画

## 岡山理科大学附属高等学校

教育の質的改善に取り組み、サイエンスとグローバルを軸に「探求力・創造力・思考力」を身につけさせ、地域社会から一層信頼される高等学校づくりを推進します。



本校の最重要課題は、グローバル化している社会に対応した教育を展開することです。学園の建学の理念や高校のビジョンを遵守し、以下の項目に重点を置いた学校改革に取り組んでいきます。

### ○人材育成と教育力の向上

グローバル社会に対応できる人材の育成のために、これまでの教育内容や教育手法を改革します。自ら考え自ら行動する学修態度の定着に加えて、サイエンス分野での取り組み技法を基に、探究心を向上させる教育へと転換します。これらの教育を実現するために、教師力の向上に継続的に取り組みます。

### ○国際理解と国際貢献に関する取組

学園が協定を締結している交流協定校との交流を強化し、英語教育を含めグローバル社会で「生き抜く力」を養成します。また、地域社会との協働を学校としての使命として捉え、校外のボランティア活動の実践などにより、地域社会への貢献と意識の醸成を進めます。

### ○高大連携と社会連携の強化

岡山理科大学を始めとした関連大学、並びに企業体や研究施設などと連携し、キャリア形成に繋がる教育を進めます。また、創造力、好奇心や専門性を育み、グローバルな視野を併せ持つ人材の養成を行います。

### ○組織力の強化

組織の見直しを行うとともに、情報共有の強化や教科会議等を密に実施します。そして、情報の共有を通して、学校組織運営の効率化を進めるとともに、教職員の意識改革によって、組織力の強化に取り組みます。

### ○経営基盤の安定

生徒の確保に向けて学校組織が共同して、広報活動の改善・強化に取り組みます。また、社会的な説明責任を果たし、生徒及び保護者が満足できる学校、地域から認められる学校として発展するように、教職員が一丸となって経営基盤の安定に努めます。

岡山理科大学附属高等学校 校長 田原 誠

## I. 教育について

1. 人材育成と教育力に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>生徒が持つ、資質や能力を十分に伸ばすとともに、サイエンスとグローバル教育を推進する。</p>	<p><b>■サイエンスおよびグローバル教育の推進</b>            生徒の学習意欲の向上と学習習慣の確立を図るとともに、基礎・基本的な知識や技能を高め、学力の定着と個々の成長に努める。</p> <p>授業や部活動など全ての教育活動を通じ、物事を客観的、論理的に捉え、自己の意見を適切に表現できる力を有するグローバル社会に適応できる人材の養成を図る。</p>
<p>生徒一人ひとりのニーズを把握し、きめ細かな実践型指導を推進する。</p>	<p><b>■アクティブラーニングの推進</b>            教員一人ひとりが、教科教育の専門性を高め、授業の質的改善を行い、生徒の基礎・基本的な学力を定着させ、生徒に応じた細やかな教育指導を行う。さらに、実践的な協働学習の充実を図り、生徒が意欲的に学習できる環境の構築に努める。</p> <p><b>■ICT活用教育の推進</b>            Classi や Google Classroom の機能を授業や復習など学習活動に活用する。iPad を利用した教授法や学習法の研究を進め、授業中に実践的、体感的な活動が生まれるように努める。積極的に校内外の研修に参加し、整備されているインターネット環境を有効活用する。昨年度、新型コロナウイルス感染症による休校時に実施したオンライン授業について検証し、ICT教育の改善に活用する。</p> <p><b>■基礎学力向上への取り組み</b>            学習内容の定着を目的に、単元のまとめ段階での確認テストを行う。また、100分授業の利点を有効に活用して発表や討論の時間を設定し、対話的な協働学習を進める。</p> <p>学習内容を効果的に定着させる指導法の研究を進める。</p> <p><b>■生徒一人ひとりのニーズの把握</b>            Classi のポートフォリオ機能やLHRでのアンケート調査などで、クラス担任が生徒一人ひとりの学習状況とニーズを把握し、学習指導を行う。</p> <p><b>■進学指導プログラムの充実</b>            外部テストのデータを活用し、進路目標に合わせた学習到達目標を設定して指導を進める。</p> <p>岡山理科大学との高大連携により、進路目標の設定に関して教授陣から指導を受ける機会を創設する。</p>

<p>リーダーシップやチーム力を発揮できる人材を育成する。</p>	<p><b>■国際バカロレア（IB）教育プログラムの実施</b> IBディプロマ・コースでは、自らの力で考える思考力とコミュニケーションを基軸とする協調性の養成を更に進める。プレゼンテーションなどの実施を通して伝える力を育成し、リーダーシップとチームワークを発揮できる人材を育成する。</p> <p><b>■リーダーシップやチーム力を育む教育の推進</b> チームワークの大切さを実感できるよう、共同で作業を進める場面を授業に取り入れる。また、その作業のまとめとして、日本語または英語で発表することでプレゼンテーション能力を高める。学習発表会や文化祭、外部団体主催の研究会など校内外の機会を利用して、学習内容のプレゼンテーションを行う。</p>
-----------------------------------	--

## II. 生徒支援について

1. 正課外活動支援に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>正課外活動に対する支援</p>	<p><b>■正課外活動支援の充実</b> 精神と身体の高揚を一体的に喚起する教育活動を実施するとともに、正課外活動を通じて社会性に優れた人材の育成を進める。 校外の施設訪問や清掃ボランティア活動などを行うことで、座学では得られない奉仕の精神や活動による達成感を体得させる。 部活動を充実させ、身体的能力の向上、文化的資質の向上を目指す。また、生徒一人一人に目標を設定させて活動を促す。</p>
2. 多様化する生徒支援に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>多様化する生徒支援</p>	<p><b>■教育相談体制の充実</b> 多様な生徒のニーズに応じた細やかな教育指導と生活指導の充実を図る。 生徒一人一人の養育歴や家庭環境に配慮し、保護者と連絡を取り合い、最適な指導方法を研究する。また、担任は教育相談室や外部機関と連携をとり、多角的に生徒を見守る。複数相談員の体制を整える。必要に応じて教職員研修を実施し、生徒のニーズ、社会のニーズに対応する教育環境の整備を進める。</p>

### Ⅲ. 国際化について

1. 国際理解と国際貢献に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
国際化を日常的なものにするとともに、多角的な国際交流事業の更なる充実を図る。	<p><b>■交流協定校との交流</b></p> <p>国際理解に重点を置き、異文化交流に積極的に取り組む。生徒に国際的感覚を身近に感じさせるために、留学生を可能な限り受け入れ、また、海外校との交流協定を締結し、留学制度を確立させる。</p> <p>交流協定により訪問を受ける外国からの研修団との交流、関連大学からの留学生との交流などの機会に、生徒を積極的に活動させることによって、異文化交流を推進する。</p> <p>本校の授業を履修・修得できる日本語力を持った留学生を受け入れ、本校の日本人学生と交流することで、生徒の交流に向けた学習意欲の向上を行う。</p> <p>海外研修、短期留学、長期留学の推奨によって、国際理解教育の推進を図る。</p> <p>ネイティブ教員を増員することによって、教員にも多様性をもたらす。</p> <p>なお、新型コロナウイルス感染症に伴う出入国の制限のため、本年度は上記のほとんどの交流計画は実施できる見込みはないが、オンラインによる交流の実現を積極的に図る。</p>
英語運用能力(聞く・話す・読む・書く)の向上を図るために、英語の「基礎学力」の定着及び「応用力」の伸長に対応できる指導法を工夫する。	<p><b>■英語教育の強化</b></p> <p>英語能力を向上させるために英文教科書のみならず、各種英語検定用のテキストや指導法を導入し、英語でのコミュニケーション能力の育成を図る。また、国際バカロレア・ディプロマ教育の実施により、英語を利用した海外への進学の可能性を築いていく。</p> <p>ケンブリッジ英語検定の受験を視野に入れた検定対策授業をグローバルサイエンスコース、スポーツサイエンスコース、中高一貫コースに設定し、ケンブリッジ英検の受験を積極的に促す。また、ケンブリッジ英検以外の英語検定への受験も全校をあげて積極的に促す。</p> <p><b>■国際バカロレア (IB) 教育プログラムの導入</b></p> <p>インターナショナルコース、国際バカロレアコースが中心となって、イングリッシュキャンプ(研修)を行い、コミュニケーション力、プレゼンテーション力の向上を目指す。</p> <p>英語学習の動機づけ、英語の基礎力の定着を目指し、eラーニングやオンライン英会話を積極的に活用する。</p>

## IV. 地域社会連携・貢献について

1. 高大連携・社会連携に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>学習において、岡山理科大学との高大連携の強化を図るとともに、生徒の学力の伸長を目指す。</p>	<p><b>■関連校との高大連携による質の高い教育の提供</b>            関連校の大学の講義等を履修するカリキュラムを実施し、生徒に学問への興味を抱かせる。さらに、大学進学後の単位認定取得につなげることで、連携大学への進学を導く。また、生徒が大学の教育研究に触れることで、生徒一人ひとりの能力・適性や自己の発見と成長に繋げる。            岡山理科大学との連携体制の構築のために、高大接続担当を置き、高大接続委員会の協力のもと円滑な教育活動を進める。            さらに、岡山理科大学との高大連携の中心であるグローバルサイエンスコース1年次、2年次のサイエンスワーク（大学聴講）、2年次、3年次のゼミ活動については、開講科目の増加による充実を図る。</p> <p><b>■岡山理科大学への進学支援</b>            高大連携によって岡山理科大学とのマッチングを進め、能力と意欲を持った生徒が大学に高く評価されて受け入れられる道を築く。</p>
<p>社会との協働で、生徒の視野が広くなり常識的な習慣を身につけられるように、社会との繋がりを強化する。</p>	<p><b>■提携企業等と連携した教育の提供</b>            授業を設定せずに様々な活動にあてることのできる自主活動期間を中心に、福祉施設や校外清掃活動などボランティア活動の場を提供する。自主活動期間や長期休業中におけるキャリア教育の一環として職場訪問を計画する。このような多様な社会体験により、社会人として必要な知識や技能を身につけ、実社会で生き抜くために役立つ多様な能力を養成する。            家庭と協力し、県や市が主催するコミュニティ活動、地元の町内会活動など校外の諸活動への積極的な参加を促し、社会の一員としての意識を醸成する。</p> <p><b>■国際バカロレア（IB）教育プログラムの導入</b>            国際バカロレア教育のコアとなる「創造性・活動・奉仕」活動に倣い、他のコースにもボランティア活動や社会体験を積極的に導入する。</p>

## V. 組織・運営について

1. 組織力の向上に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>学校の方向性に対して教職員が一丸となり、ベクトルが一つになるような組織作りを目指す。</p>	<p><b>■学校運営会議の強化</b>            教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議、コース会議、教科会議などを定期的で開催し、協議した内容を全校の職員会議に諮る強力な運営体制を維持継続する。さらに、校務組織を簡素化して全員が校務運営に参画できるように改革し、構成員の意識の向上に努める。            学校運営会議は毎週行い、学校を取り巻く現状を報告、確認することによって、学校運営に必要な措置を講じる。</p> <p><b>■コース会議、教科会議の強化・連携</b>            コース会議、教科会議を定期的で開催し、議事録によって検討事項、決定事項を校長、教頭に報告する。</p> <p><b>■職員会議の強化</b>            職員会議以外にも、メールによって、教職員間の情報共有を図る。</p> <p><b>■校務横断的な取組み</b>            複数の部署に関係する案件は課長が中心となり、校務横断的なプロジェクトチームを編成し、業務の遂行を図る。</p>
<p>学校運営が円滑になるように、チームリーダーの養成や研修を実施し、それが全体へ波及するような仕組みを考える。</p>	<p><b>■教職員の資質向上への取組み</b>            各種の研修やワークショップ等への参加を通じて、個々のスキルアップを図り、組織の一員として自己の確立へ導く。            外部団体主催の教科指導に関係する研修を重要視し、研修への参加を強く勧める。特に、新教育課程、大学入試対策に関する研修には積極的に参加できるよう環境整備を図る。            研修で得た情報は、職員会議や校内ワークショップにて全教員で共有する。</p>

## VI. 内部質保証について

1. 内部質保証に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>内部質保証システム体制の確立。</p>	<p><b>■学校運営会議の強化</b> 教育職員と事務職員が一体となり、附属高校の方向性を共有するために、運営会議にて具体的な運営方針を定め、全教職員への周知徹底を図る。</p> <p><b>■教科会議の強化</b> 教科指導に関しては、教科主任が中心となり、授業研究を進める。</p> <p><b>■授業評価による授業の改善</b> 教頭、教頭補佐等によって授業評価を行い、教育の内容と教員指導力の改善などを進める。また、生徒による授業評価を実施し、授業担当者による効果的な授業の進め方を検討する。(非常勤講師を含め全教員対象として実施予定)</p>

## VII. 運営・財政基盤について

1. 経営基盤の安定化に関する中期目標	
中期計画	令和3年度事業計画
<p>生徒を安定的に確保するために志願者の増加を図る。</p>	<p><b>■広報活動の充実</b> 附属高校としての評価を高めるためにブランディングを定め、教育活動並びに教育内容を多角的に伝え、広報活動の充実を図る。また、部活動は広報的要素が大きいことから、教育と併せた広報活動を展開する。さらに経営状況の分析をもとに、効率的、効果的な広報活動の展開を進める。</p> <p>岡山理科大学との連携を最大の特徴として広報活動の充実を図る。 中学校訪問、塾訪問、学校説明会開催により各コースの特徴をわかりやすく周知することで、本校が求める生徒像を外部に具体的に発信する。 広報活動の迅速化、効率化が図れるように、ハード面、ソフト面で入試広報課への支援を増やす。特に、昨年度導入したインターネット出願システムを効率よく利用することで、広報活動の効率化と受験者数の確保を進める。</p> <p><b>■入試制度の検討と見直し</b> インターネット出願システムを活用し、受験生や中学校の負担の軽減、入試業務の簡素化、迅速化をさらに進める。 競技人口の多い競技を部活動として志望する生徒を積極的に募集することによって、生徒増を図る。 社会が本校に求めているニーズを精査し、従来のコースや系の再編成、新しいコースや系の設立など魅力的な学園作りを進める。</p>

<p>補助金など学外資金の獲得を強く推進する。</p>	<p><b>■外部資金獲得のための教育活動の強化</b></p> <p>生徒を安定的に確保することで、補助金の交付額の改善を導き、学校の安定経営に繋げる。また、文部科学省などが推進する事業を活用し外部資金を獲得することで、教育内容を深め、生徒の学習意欲の高揚に繋げ、募集活動が幅広く展開できるよう努める。</p> <p>募集定員数の生徒を確保できるよう、全教職員が協力して入試広報活動に取り組む。</p> <p>外部資金を獲得できる教育活動の導入に関して検討を始める。</p>
-----------------------------	--



## 主な行事予定

4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月18日	1期入学式（通信）
5月15日	PTA 総会
7月18日	後援会総会（通信）
7月19日	全校集会
8月1日	1期卒業式（通信）
8月29日	2期入学式（通信）
8月30日	全校集会
9月30日	体育祭
10月8日	文化祭
12月12日	2期卒業式（通信）
12月24日	全校集会
12月26日	3期入学式（通信）
1月9日	県外生入試
1月27日、28日	選抜1期入試
2月19日	選抜2期入試
3月1日	卒業式
3月15日	3期卒業式（通信）
3月18日	終業式

## 生徒・教員数

### ■在籍生徒数

(令和3年5月1日現在)

課程・学科・コース名		入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
全 日 制 課 程	グローバルサイエンスコース	80	267	1,200	786
	総合進学コース	180			
	国際バカロレアコース	20			
	スポーツサイエンスコース	80			
	中高一貫コース	40			
	普通科 計	400			
全日制課程 計		400	267	1,200	786
通信制課程 (広域)普通科		/		600	50
総 合 計		400	267	1,800	836

(単位：人)

### ■教職員数

(令和3年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員 計
1	2	55	58

事務職員
14

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度		
		令和3年度 予算額	令和2年度 決算額	
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	500,054	432,558
		経常費等補助金	242,511	245,172
		その他収入	61,658	37,974
		計	804,223	715,704
	支出	人件費	777,883	779,833
		教育研究経費	244,008	242,303
管理経費		114,219	119,589	
その他支出		0	0	
計	1,136,110	1,141,525		
教育活動収支差額		△ 331,887	△ 425,821	
教活外	収入	受取利息等	0	2
	支出	借入金利息等	4,803	6,428
	教育活動収支差額	△ 4,803	△ 6,428	
経常収支差額		△ 336,790	△ 432,247	
特別	収入	資産売却差額等	0	1,282
	支出	資産処分差額等	36,286	1,387
	特別収支差額	△ 36,286	△ 105	
基本金組入前収支差額		△ 373,056	△ 432,352	
基本金組入額合計		△ 30,282	△ 204,922	
当年度収支差額		△ 403,338	△ 637,274	

### ■施設設備整備計画（抜粋）

(単位：千円)

事業名	金額
I Bコース教室改修工事	5,000
第七校舎耐震改修工事	15,000